

## ＜声＞ ワクワクな里山体験の一日

主婦 和歌山県 (67)

朝日新聞 2016年5月29日

先日、妹夫婦に招かれて、娘たち一家と里山体験の一日を過ごした。妹の夫が所有する里山は今、タケノコやフキ、ワラビなど山菜のシーズンを迎えている。

大人たちがタケノコを掘る傍らで8歳と11歳の孫娘が黄色い歓声を上げる。ワラビを斜面に見つけてキャッキョとにぎやかなこと。生シイタケを木から収穫する初体験にも、孫娘らは興味津々。山を下りると、小川に小さな魚やカニが群れている。網を手に数匹バケツに。そのうち、「何、これ?」を連発。どうやらヤゴらしいが、見たことがない孫娘らは恐る恐るのぞき込む。新緑の里は大人も子どもも魅了した。ワクワクな里山体験である。

広大な里山は自然の宝庫だ。いつまでも残したいという気持ちとともに、山を維持していく大変さも垣間見た。イノシシよけの柵を設置しているものの、あちこちで掘り起こされ、食べ残されたタケノコが転がる。心ない人が勝手に山に入って山菜を採り、山を荒らされることも多いという。妹夫婦の山を守る苦心は尽きない。